

研究・調査報告書

報告書番号	担当
156	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Misuse of prescribed stimulant medication for ADHD and associated patterns of substance use: preliminary analysis among college students. 注意欠陥多動性障害 (ADHD) 用の中枢神経刺激薬の誤使用と薬物乱用と依存パターンの関連 ; 大学生を対象とした予備調査</p>	
執筆者	
Sepúlveda DR, Thomas LM, McCabe SE, Cranford JA, Boyd CJ, Teter CJ	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Pharm Pract. 2011 Dec;24(6):551-60.	
キーワード	
注意欠陥多動性障害 (ADHD)、薬物治療、刺激薬、誤用、転換、アンフェタミン	
要 旨	
<p>目的 : 大学生における ADHD 用の中枢神経刺激薬の誤用の割合と特徴(薬物乱用と依存を含む)を明らかにすることを目的とした。</p> <p>方法 : Midwestern research university から WEB を用いた服薬調査により抽出した刺激薬を処方されたランダムサンプル (n=1738) を対象とした。処方された刺激薬の誤用を評価するためインデックスを作成した (誤用インデックス)。</p> <p>結果 : 前年に ADHD 用の処方刺激薬を使用した 55 人の大学生のうち、22 人(40%)は少なくとも誤用インデックスの 1 項目に該当した。最も頻度の高かった誤用は、過剰服用(36%)で、自己申告の誤用 (19%)、故意にアルコールまたは他の薬物と一緒に服用 (19%) があった。処方された刺激薬治療の誤用者は、喫煙(p=0.022)、大量飲酒(p=0.022)、違法薬物 (コカイン) (p=0.032)の不法の使用を報告および薬物乱用スクリーニングテスト(DAST-10)基準 (p=0.002)で陽性を示す可能性が高い。DAST-10 の二変数のオッズ比は、8.4 (95%信頼区間 2.0-34.6) を認め、処方された刺激薬の転換は一般で (36%)、刺激薬の誤用者で頻繁に生じた(57%; p = 0.008)。</p> <p>結論 : ADHD 用の中枢神経刺激薬の誤用と薬物乱用と依存や転換のような他の有害な習慣には強い関連があった。これらの知見は、薬物使用中の大学生において密接なスクリーニング、評価、治療モニタリングの必要性を示唆した。</p>	